

#### (4)

部会名 子ども部会 ⑪

政策提言

一般的な生活が困難な状況にある子どもの  
成長と社会生活を支援するネットワークの構築  
現状と問題点

- ・非虐待、育児放棄された子どもは増加傾向にあるが、実態把握は十分行われていない。
- ・問題が把握され保護施設に児童が入所した後も、子どもが家庭的養育を体験するための支援環境は充実していない。
- ・問題の背景には、ケースワーカー(児童福祉士、相談員)の不足が指摘されている。(一人のケースワーカーが担当する児童数は日本では平均200人、スウェーデンなどの先進諸国では20人と言われている)
- ・アトピー性皮膚炎、ぜんそく、化学物質過敏症、食物アレルギーなどの慢性疾患が背景にあり、通学困難となった児童の在宅学習や、各種疾患により長期に入院している児童の訪問教育の機会が不足している。ケースワーカー支援の体制づくりがなされていない。
- ・不登校期間が長く義務教育期間を過ぎてしまった青少年が、社会に参加、再チャレンジ、就労することを見通した、生活力の習得と職業訓練を視野に入れた、多面的な学習機会が提供されていない。(児童福祉施設や養育里親家庭から退所する20歳未満の子どもたちも同様の立場に置かれている)

具体的な内容

(1)窓口や施設ごとに分断されない支援の連携と人材育成

- ・児童分野における児童福祉士や各種相談員と、地域保健の分野における相談員、医療ソーシャルワーカー、母子相談員等や学校、病院との連携実態の把握
- ・非虐待児、育児放棄された子どもの実態把握、留保事例、継続確認中などの疑わしい事例の掘り起こし(実態把握)
- ・措置される子どもを中心に据えた、窓口連携の整備、「個人情報」取扱いルール構築  
(事例)成長と共に、乳児院、児童保護施設、養育里親等の措置先を移動する児童の、成長発達や生育課題や育児経過を、「措置記録」としてではなく「生育の記録」として引き継いでいく発想の転換と実務の整備
- ・非虐待児の支援が可能な専門里親や、ファミリーホーム運営者の人材育成とケーススタディを基本としたキャリアアップの仕組みづくり

(2)在宅学習、訪問教育、生活力取得、職業訓練等の多面的な学習の機会へつなぐ、社会支援ワーカーのしくみ構築と、市民活動(NPO等)と連携した人材養成

(3)生活力の習得と職業訓練を視野に入れた、多面的な学習機会の提供

- ・学校の空き教室、公民館、児童館等の既存施設を活用し、地域の人材や市民活動(NPO)と連携した生活力習得の機会開発(例えば、洗濯、掃除、銀行の使い方、電気・水道の契約など、自立に関連した内容の学習、福祉サービスの活用について学習)  
・既存の職業訓練施設にカリキュラムを増やす形で、中学卒業レベルの年齢の人(日本国内に在留する外国人の子弟、不登校・引きこもりの期間が長いが社会復帰を目指す青年も含む)も習得できる学習・訓練の機会を設ける

期待される効果等

- ・近年増加傾向にあり、悲惨な事例が続けて発生したことから、社会的関心が高まった子どもの虐待と育児放棄の実態を捉え、解決へ向けた取り組みに着手できる。
- ・子どもたちが、多面的な学習機会を得ることによって、再生産される「社会からの逸脱」を阻止することができる。
- ・子どもたちが「貧困」から脱出するための技能を学び、社会との関わり方を身につけることによって、社会を担う市民を育てることができる

必要な予算・条件等 (単位100万円)

(1)窓口や施設ごとに分断されない支援の連携と人材育成 (4500万円)

- ・連携実態の把握 5
  - ・非虐待児、育児放棄された子どもの実態把握 10  
※既に蓄積されている行政資料・データの解析と、都市部、町村部などのサンプル調査
  - ・子どもを中心に据えた窓口連携の整備 10  
・人材育成とキャリアアップの仕組みづくり 20
  - (2)社会支援ワーカーのしくみ構築と人材養成 (2000万円)
- (3)生活力の習得と職業訓練を視野に入れた、多面的な学習機会の提供(3500万円)
- ・生活力習得の機会開発 10

- ・低年齢・外国人子弟・社会復帰する人を対象としたカリキュラムの開発 20
- ・普及・啓発 5

政策提言の責任者

[メールアドレス] Akagi@atopicco.org

[所属団体・役職・氏名]

[電話番号] 03-5291-1391

アトピッ子地球の子ネットワーク 事務局長